

日本指圧専門学校同窓会



# 会報

第15号

発行年月日 平成8年3月31日  
 発行人 会長 石垣 惟一  
 編集者 藤井 正弘  
 日本指圧専門学校同窓会  
 東京都文京区小石川2-15-6  
 〒112 TEL 03-3813-7354  
 題字 山内貞四郎



## 徹先生メモリアルセミナー トロントにて盛大に開催

故浪越徹校長先生の追悼メモリアル指圧セミナーがカナダ・トロントにおいて七月七・八・九の三日間に亘って、日本、オランダ、イタリヤ、カナダ、ハワイ、台湾、スペインから約四百名の指圧関係者が参加、過去最大規模の大会となった。

いさつにはじまり、浪越徳治郎先生のあいさつ、映画「指圧、その心と技」の上映、満都子副校長先生による指圧実技指導の後、指圧により著しい治療効果を収めたトロント周辺の各界知人の表彰式……指圧アカデミー(本部)トロント、校長齊藤健泉氏)賞の授与式が行われ午前九時を過ぎた。

午後には各国代表の指圧セラピスト7名が、ムチウチ症治療。妊娠、出産と指圧。孝副校長先生は脳性小児マヒの指圧療法などについて講演と実技を行った。尚齊藤健泉先生はしめくりに「手根管狭窄神経症候群の指圧療法」について講演と実技指導を行った。

同夜はチエスナットパークホテルで盛大なレセプションが開催され参加者一同親交を深めた。九日午後二時より指圧国際大会に出席した同志がオントリオプレスで実施された「青空指圧」は故浪越徹校長先生が、東京上野公園で指圧普及などの目的で二十数年前から始めたボランティア活動でした。今度のトロントでの「青空指圧」も先生がかねてから念願のものでした。先生をしたので午後四時迄続けられ大好評でした。

スが開催され日本からは「指圧の心母ごころ……」でおなじみの浪越徳治郎先生が九十才の高齢とは思えぬ元気で出席され、二代目校長徹先生夫人満都子先生(副校長)、ご長男の孝先生(副校長)、夫妻、長男友哉くん(一才)など浪越家四代が顔をそろえるにぎやかだった。

ホテルのバラホールではトロント市長はじめ各来賓の挨拶が、その後、浪越徳治郎先生が最初の一打……そして焼香をすませ、追善法要が無事終了した。

その後鐘堂の前で日本文化会館(日系人クラブ)主催の故浪越徹校長先生の追善法要があり、先生の大いなる遺影の前に読経、鐘楼に力強く徳治郎先生が最初の一打……そして焼香をすませ

二 挨拶

『腹も身のうち』

同窓会会長 石垣 惟一



さて、昨今「いじめ」を良く耳にするが世の中に「腹」程いじめられているものはないと思うが？ふうく吹きながら熱いものをのみ込む、氷のような冷たいものを流し込む。

食事の時間もままならず次次はうり込む。胃腸はフル回転「腹」は休む暇もなく働かなければならない。これだけ「いじめ」られても「腹」は大丈夫、夫々の構造、状態を持っているから、然し不適応の場合は勿論反応を示す、無謀に使うことは

良くない。「腹」も身のうち」暴飲暴食の警告である。昭和二十年前後は「食べられるもの」は「何時でも何処でも何でも食べる」は栄養学の講義であった。

の多い現代、要注意。一方これとは別に「ダイエット」「拒食症」などの問題もある。友人S氏は健康に恵まれ自負していたが定年後その夏には「胃カメラ」のお世話になり、晩秋には結腸の「きのこ狩り」それも取り切れず再度処置とか、「腹も(は)身のうち」別の意味で再確認、早期発見、早期治療に、ぜひ検診を。私事で恐縮だが、この場を借りて、私、会長として二年間同窓会各位のご協力、ご支援により過すことが出来、有り難く心から感謝し、今後、会の益々のご発展と皆様のご健勝、ご多幸を祈念している。

日本指圧専門学校 同窓会 通常総会

日本指圧専門学校の平成七年度通常総会(講演、懇親会含む)が六月十一日(日)新装なった茗溪会館において開催された。

出席者は準会員(在校生)を含め百三十余名。定刻十二時三十分、司会は運営委員中村秀治氏(30期)。厳かに本年度同窓生物故者25名の氏名が読みあげられ一分間の黙祷が捧げられたのち、第一部総会が開始した。

開会の辞は小林秋朝副会長(17期)君が代斉唱後、石垣惟一会長(6期)の挨拶、次いで浪越学園理事長、浪越徳治郎先生からご挨拶を頂戴、日本指圧

奉仕を謳いながらその実は私事の方に狂奔しようとしているのではないだろうか。派閥づくりに人徳などより金権がものをいう、のを見せ付けられるとき、人間のこのころのひ弱さを痛感する。またまた私の「組織アレルギー」が再発したようだ。これからは同窓会の、そして協会の一会員として最小限の協力をさせていだけだ。

浪越指圧訓の『母心』を世界中に広めるために、いまこそ学校と同窓会と協会とが三位一体となることを心から希求してやまない。

協会副会長、佐藤岩治郎先生から来賓代表のご祝辞、つづいて議長団選出、斉藤嘉子(6期)、小林彦太郎(15期)、高野助二(21期)の三氏が選出された。議長団席に着席後簡単に自己紹介があり議事に入った。

①平成6年度事業報告、藤井正弘幹事長(8期)、②平成6年度会計決算報告、青木宏会計(19期)、③平成7年度監査報告、小川清(25期)、山田滋(24期)、④平成7年度事業計画案、⑤平成7年度会計予算案が全員拍手で承認採択された。

閉会の辞は池田知子副会長(32期)で総会は無事終了した。記念講演は午後一時二十分からスポーツジャーナリスト、松永喜久先生の「指圧と世界チャンプ」の講演が行われた。第二部懇親会は午後二時から坂東茂雄氏(34期)、塩野泰利氏(34期)、小久保和夫氏(35期)、小倉義夫氏(36期)の司会で開会。乾杯は田代和平副会長の首頭で宴に入った。会員の歌、踊、又準会員も自慢の喉を披露、談笑しながら親交を深めなごやかなひとときを過した。最後に校歌「指圧讃歌」を斉唱し定刻三時三十分閉会となりました。「同窓生のみなさま結束をあらたに」

視点 学校、同窓会、協会の三位一体を希って!!

21期 片岡弘昌

私が日本指圧学校(現、日本指圧専門学校)を卒業したのが昭和五十四年三月。あれから早いもので、十八年の歳月が経っ



てしまった。「十年一昔」という諺はどうも今のご時世には通用しないようだ。確かに見方によつては社会構成も、人も、人情も変わったかにみえるが、人間本来の性(長い物には巻かれる)はずこしも変わっていないようだ。

二十数年前、私は不本意ながら或る大事件(今の金権政治の走り)とだけ言っておく)に巻き

込まれた。それ以来、「組織アレルギー症」にとりつかれ一切の組織活動を嫌悪するようになっていた。そんな哀れな私に立ち直る機会を示されたのが、浪越徳治郎先生の「指圧のころ母心」でした。しかし、私の症状は重く、組織の力に依存するより一職人(治療家)として生きようと心にきめ、出張専門の大手治療院に籍をおいた。しかし世間はそんなに甘くはなく、入社したその日から一人前の施術師をして仕事に出向させられ何んとかその場を繕うというニガイ目であった。おかげで私はひとつ強くなった。或る時は患者?になって治療院を回って

先輩達の技術を少しでも身に付けようと心がけた。また昔教わった古武道家の門をたたき活法や整体術を学んだ。私は前記の治療院を辞めることなく、その日その日の仕事に誠意をもって努めるようにした。未熟な技量にもかかわらずお客様は私を呼んでくれた。そのうち指名が多くなり「片岡デー」などと揶揄もまじえて言われるようになった。その時「だれでもが行ける様な仕事をしろ」という社長のご託が私を決定させた。△御座なりの施術は私には出来ない。母心の指圧師になろうと。

組織というもの存在感は一

記念講演

指圧と世界チャンピオンズ

スポーツジャーナリスト 松永喜久先生



平成七年度同窓会の記念講演は女性のスポーツジャーナリスト松永喜久先生の講演の運びとなりました。講演のテーマは「指圧と世界チャンピオンズ」、講演内容は「指の光」第四四五号に詳しく掲載されましたが……

が崩御された年です。先生のご主人はボクサーでしたのでこの世界に入ったそうです。

先生のテーマを見ただけで、誰でも想像するのはボクシングの世界チャンピオン：ファイティング原田、笹崎ジム所属、彼は十七才でフライ級デビュー、十九才でチャンピオンベルトを獲得しました。彼はリング上で戦う他に、もう一つの戦いがあったのです。それは減量との戦いです。若い盛り、成長期、食べるに太る、辛い毎日だったと思います。そんな神経の昂っている時、徹先生の指圧がそれを鎮めて下さったのです。

試合当日まで、徹先生、小林先生、藤井が交代で治療をしました。当日の会場は日大講堂、私達三人は控室を訪問、笹崎会長から日の丸のついたハチマキを渡されセコンドとして選手と一緒に進行曲に送られながらトレーナーとして入場したのです。その時の緊張感はまだ忘れられません。

新人王となったのですが、その後腰痛で苦しんでいたそうです。ある朝、先生から「治療室へ来なさい」と声がかかり急いで参りますと柴田選手がおりました。先生は柴田君は将来必ずチャンピオンになると太鼓判をおしたのです。

です。その後快方に向かいうれしい知らせが入りました。敵地メキシコでタイトルマッチ、相手はチャンピオンのサルバドル戦、柴田選手は不利を見事にはねのけたのです。そして念願の世界チャンピオンになったのです。

通常は拒絶反応を起こすのに、例えば肝臓と小腸の一部を同時に移植すると免疫機能も共に移植したことになる、拒絶反応がなくなりました。発見と言えは発見だが、しかしこの「寛容」は昔からあった。それは姑と嫁と孫との関係である。

研修ツアー記念講演

最近の免疫学の動向

医師 大塚 壽彦 先生



ユーモアたっぷりで、それでいて例えも解り易い先生の講演は、免疫について多岐にわたる豊富な内容を持つものでした。免疫学の歴史的側面や、最近の食文化あるいは世相を反映しての生活の変化による免疫の異常、これらに対処する免疫学の進歩などにも言及され、興味深くしかも考えさせられる一時間半でした。大要は次の通りです。

治療は朝八時から開始、先生が要所を重点的に治療、その後私が全身治療をしました。柴田選手は毎朝自転車であられ、治療が私の日課になったの

まだはつきりしていない点はありますが、原因が解らないとされている、いわゆる難病は、免疫上の異常によるものではないかと思う。現在の多くの病気が又その殆どが免疫異常であろう。

講演全体の中で先生が力点を置いたのは、我々の体が健康であることは、免疫機能が働いているからであり、免疫機能が上下すると病気になる。自分の日常生活は常に健康に留意することが必要である。逆に、自己免疫型の病気には、いつでも誰でもかかる恐れがあるということにも注意。

「免疫と免疫学の進歩」

免疫学というのは非常に進歩の激しい学問で、三ヶ月も勉強をおこたると、概念までもが変ってしまふ。歴史的にみると二十年前の免疫学は、主として寄生虫に対するものが世界的動向であったが、現在は、外部からの原因ではなく、自己免疫の病気が最重要課題となってきた。つまり二回目以降に同じ原因が体内に入ってきた時には、いつでも大丈夫という防衛軍がスタンバイしているのが普通だったが、その二回目以降に自己免疫がやっかいなことを起こしていることへ対処することが、現在の免疫学の主題である。又、

「免疫がドラマだとする」と役者は誰か」

免疫とは、疫いわる病からのがれることである。免疫が一つのドラマだとすると役者に相対するのは、好中球、単球、マクロファージである。これらは外敵が侵入してきたら殺しにかかるという免疫学上でも一番初歩的なところを演じる。次にT細胞とB細胞がいる。これら役者が統合して、細菌、ウイルス、寄生虫病などに、いろんな反応をして行く。

「その他」

以上の他、抗体、抗原の働きや、アレルギーの四分類、具体的な病気の説明（膠原病、関節リウマチ、エイズ、アレルギー性鼻炎）などに触れました。特に興味深かったのは、原因が良く解らなかつたアトピー性皮膚炎はアレルギーの分類のI型に入るのではないかと最近の研究の成果が挙げられました。又先生のお話の中心ではないかと思われるのは、東京下町の例え話でした。昔は路地で子供が火遊びをしていると誰かが必ず見て一杯のコップの水で火を消した。現在は世相を反映して、一九番に電話して化学消防車までがくる。これは過度の免疫異常なのだ——と!!

「免疫寛容」

免疫学の最近のトピックスとも言える免疫寛容は、今後の免疫学の方向を示している。臓器移植に関するもので、移植の際

# 『女の悩みは指圧で消える』

日本指圧専門学校副校長

浪越 孝著

## 出版記念祝賀会

浪越満都子



浪越満都子先生

浪越 孝先生著『女の悩みは指圧で消える』の出版記念祝賀会が去る平成七年十二月十日(日)正午より湯島ガーデンパレス「錦の間」に於て開催された。

「本日は御忙しい中を浪越孝君の出版記念パーティに御参加いただきまして誠に有難うございました。孝君にとって処女作となりまして三書房『女の悩みは指圧で消える』は皆様に支えられながら出版することが出来ました。本日は、ささやかではございますが皆様に感謝の意をこめて、このようなパーティを開催させていただきます。

是非皆様おくるぎの上お楽しみいただきたいと思います。」

と挨拶、つぎに、学校法人浪越学園理事長浪越徳治郎先生より「今日はお忙しいところわざわざ

わが御出席下さいまして誠にありがとうございます。著者の孝は、徹のせがれで私にとって孫にあたります。この度処女作を出版いたしました。皆様大勢にお出でいただき感謝にたえません。この本は初心者にはとてもわかりやすく書いていて、指圧を広める上ではとても良い本だと思えます。」と御挨拶。次に私は、「孝は未熟児で生れ、そのときの記録をまとめて徹先生が実業の日本社より『育児指圧』として初めて出版されました。そのまえがきを御紹介いたします。『子供のころ、私は神経性の消化不良などをよくおこしたものです。当時指圧がまだ世界一般に知られておらず、父もだぶ苦勞し、あっちこちと何度も引越したりで、環境的にも馴じめなかつたせいでしょうか。夜中に腹がシクシク痛みだすと父の手をとって指圧の催促をしたものでした。すると父が寝ぼけながらも手を当てて圧してくれましたので、そのうちに痛みも止まり、朝までぐっすり眠った

という記憶が強く残っています。こんなことをくりかえしているうちに、わたしの胃腸もすっかり丈夫になり、消化不良や自家中毒症を起さなくなりました。又、私の長男孝が未熟児だったので、気を配って育てた甲斐があつて、一歳の誕生日迄には標準以上の健康児になりました。以上のような私自身の体験を通して、いかに育児指圧が大切かを痛切に感じる次第です。」と書かれております。その後徹先生は多数の著書を出されました。孝もこれを第一のステップとして、父浪越 徹先生のように、今後ますます活躍されますように希望し期待しております。」と挨拶。つぎに三書房服部良一様より、



服部良一様

「浪越徳治郎先生、浪越 徹先生につづきニューヒーローに對して指圧を日本全国世界各国に広げていくことを考え、孝先生のキャラクターを生かし、三ヵ月間で良い本が出来上がりました。感謝しております。」と御挨拶。元東京都衛生局医務局長青山好作様より、「私が医務局長をしていたときと思いますが、御祖父の浪越徳治郎先生が不朽の名書といつてもいいかと思いますが『自分



青山好作様

出来る三分間指圧』を出され、拝読した記憶がございます。孝先生今後も御出版の予定があるということでは是非期待したいと思います。その後徳治郎先生も沢山の著書をお書きになり、又徹先生も同じであつたと思えます。浪越徳治郎先生が著書を出された昭和40年〜50年代は、日本の高度成長の時代といわれ、世界一金持ちの国になりました。医学では一年たつと一年寿命が延びると云われ、世界一の長寿国になって参りました。そのときの先生の著書がたくさん国民の健康に役立ったと思えます。今は世界で経済的に豊かで、健康で長生きが人類の夢で、その夢をなしたとげた国は世界一幸福の国といえると思えます。一つの国が繁栄するには女性の力が大きいと思えます。孝先生がその女性に注目され、健康に関心を強く持ち、今後第二のベビーブームがあり、第二の経済成長が来ると思いますが、第一次のとき徳治郎先生の本が国民の健康に役立ったように、第二次成長期には孝先生の著書が必ず役立つことと思えます。」と御挨拶されました。次に東京衛生学園校長後藤修司様より、「私ははじめこの本は、男がもつ女性の悩みの本だと思いま



後藤修司様

した。女性の病氣に對する指圧の本ですが、男性で間違つて買う人もいると思う。私もそういう悩みをもってみたいと思えます。全国で東洋療法学校協会加盟校は28校ありますが、協会の中でも孝先生には是非活躍してほしいと期待しています。先日アメリカの全有力6誌、ロスアンゼルスタイムズ、ワシントンポスト、USFDなどに、東洋の健康に関する記事は年間860出ているそうで、これは毎日2〜3種類どこかに出ていることになり、その関心の高さがうかがわれます。アメリカの医学辞典にも「指圧」と出ていて、徳治郎先生、徹先生から指圧が世界の人々に広められ、今や全世界の人々から期待をされて、すばらしいことと思つている。」との御挨拶。次に、学校法人大原学園大原簿記学校理事長青木靖明様より、「本は実体験がないと書けないし、文に現わして書くことは苦勞するが、又、すばらしい表現力を養うことになる。本を書く度に人間は一枚も二枚も自分をステップアップしていくことと思えます。これが処女作で自分の成長と共に指圧の理念を更に広げていくことと思えます。大学を出ると学士、専門学校を出ると専門士、簿記学校を出ると經理の出来る専門士、指圧学校を出ると指圧の出来る指圧専門士。これからの世の中はゼネラリストよりも、スペシャリストの人材が要求される。これから浪越学園が益々発展され、立派な指圧専門士を育てていただき、我々の健康を見守っていただきたい。特に女性の皆様、この本を良く読み日本を明るくしていただきたいと思えます。」と御挨拶。(株)富士設計事務所代表取締役飯沼富士夫様より、「孝くんとは徹先生が亡くなられたときにも人生とは何ぞやという話を良くしていました。昨今は出版ブームであるが、孝先生はこの本を現代風に我々にわかりやすく書いてあります。仲間として一言いわせていただくなら、本は売れて始めてメデタシメデタシということです。ここにいる方達が皆宣伝マンになり、本をアピールしてベストセラーになれば、又、お酒も御馳走になれるのではないかと思



青木靖明様



飯沼富士夫様

います。」  
次に、乾杯の音頭は国際格闘  
空手道連盟大導塾代表師範塾長  
東 孝様より、



東 孝様

「私の名前も同じ孝ですが、  
孝先生は人間的にも指圧の道で  
も精進されて親孝行、おじいさ  
ん孝行されている人だと思いま  
す。この本はネーミングが良く、  
指圧道が徳治郎先生から徹先生  
満都子先生と受けつがれ、益々  
発展するように願っています。  
ヤマハ(株)リゾート東京営業所  
長横田 実様から、



横田 実様

「私は前校長とは大学の先輩  
後輩のおつきあいをさせていただ  
いておりました。孝さんが今迄  
すばらしい環境でこられました  
が、これからも人間の道を大切  
にして、四代目、五代目と指圧  
を続けていくよう頑張っていっ  
てほしいと願っています。ヤマ  
ハはピアノとして知られており  
ますが、北海道から九州迄各地  
にレジャー施設がありますので、  
皆様又ご利用下さい。」  
イタリアアローマ指圧学校校長

フルビオ・パロンビーニ様から



フルビオ・パロンビーニ様

「孝先生には深い友情の中で、  
浪越指圧を通じ、正しい指圧を  
広め伝えて行くように努力して  
いきます。この本が早くイタリ  
アに於て読めるように望んでい  
ます。」



小林秋朝様

日本指圧専門学校同窓会副会  
長小林秋朝様から、

「思えば平成三年六月お母さ  
まである浪越満都子先生が指圧  
で美しくなる本を出版されまし  
た。今日の本は孝先生が『女の  
悩みは指圧で消える』です。大  
変ユニークな名前前で、読まずに  
はいられないのではないかと思  
います。ユニークですが一流  
の指圧師だけあって、指圧のツ  
ボだけでなく、心のツボをとら  
え、やさしく楽しく指圧が出来  
る本だと思います。すぐ役立つ  
実用書ということで、多分多く  
の方々に親しまれ、読まれるこ  
とと思います。孝先生の今日の  
祝賀会は旅に例えれば長い道程  
の一里塚であると思います。こ  
れからも多くの書物を、徳治郎

先生、徹先生、満都子先生の文  
才をうけつぎ、出来れば「男の  
悩みが指圧で消える」めがねも  
いらず、いれぬもいらず、男の  
為の指圧の本を書いてもらいた  
いと思います。会場に出席され  
ている立派な先生方と共に、指  
圧界の為に学校の要職をにな  
いながら益々御発展されるよう  
に切望しています。」  
その後、ヤマハ会長川上浩様  
三天書房大久保様、愛知支部堀  
田裕晴様、友人間山由美子様達  
より祝電。

また、小暮規子様からは「孝  
さん、本日は仕事で香港にいて  
出席出来ずとも残念です。孝  
さんが浪越学園が日本の指圧が  
より一層世界中に羽ばたくよう  
に希望しています」と祝電披露  
又、元琴乃富士閣と三天書房  
大久保様より壇上に御花をいた  
だいた。



麻生芳孝様

「空手も指圧もツボが必要で  
共通しています。第二弾を出さ  
れるときは女の人に指圧を覚え  
てもらい、男性の腰痛や肩こり  
などの悩みをなおしてほしいと  
思います。指圧道を通じて立派  
な先生になって下さい。」  
その後CP研究班のお母様よ  
り、「世界中の脳性麻痺の子の

上に光のようにかがやいて下さ  
い。」とメッセージいただき、よ  
しお君、ミーチャンから御祝の  
言葉、花束贈呈がありました。  
よしお君は「僕も大きくなった  
ら、指圧師になりたいです」と  
のべ、会場は、一瞬、感激のう  
ずまきこまれ、まぶたが熱く  
なり、涙をこらえるのに必死で  
した。ミーチャン、よしお君あ  
りがとう。



田代和平様

続いて、日本指圧協会専務理  
事田代和平様より、

「孝先生は日本指圧協合理事  
として、又、副校長として徳治  
郎先生をよく補佐し、学校の公  
務と指圧の普及宣伝に大いに貢  
献されることと思います。今後  
の御活躍を期待しています。」  
続いて、(学)大原学園理事芳野  
峰雄様より、



芳野峰雄様

「孝君にとりまして本年は五  
月の御結婚、副校長就任、七月  
カナダに於ての講演、本日の出  
版と本年をしめくくる意味で誠  
におめでとうございます。私の  
尊敬する理事長青木靖明は常に

こう申しております。徳育の面  
で人間性を高めるには意志力  
や情操面を育てることが大切で  
す。やさしさ、思いやり、親切さ  
は情操面であり、やる気、がま  
ん、根気は意志力に関係します。  
心の教育、人間性を高める五つ  
のポイント「あ」は愛情をもつ  
て教育する。「い」は意欲をもつ  
て教育する。「う」は美しい心で、  
「え」は笑顔で、「お」は思いや  
りをもって指圧教育にとりくん  
でいただきたい。ドイツで尊敬  
されている職業は、①大学教授  
②医者、③牧師、④マイスター。  
マイスターとは職人の頭という  
意味である。孝くんには手技療  
法の頭に東洋療法の本になるよ  
うにと申し上げたい。日本の経  
済の成長は昭和30年代は白(米  
砂糖、小麦粉)の時代、昭和40  
年代は黒(石油、鉄鋼)の時代、  
昭和50年代は車の時代、昭和60  
年代はエレクトロニクスの時代、  
21世紀は宇宙の時代とか宗教の  
時代とか云われるが、私は心の  
時代、いや浪越指圧の時代と思  
っています。」

三天書房服部様「職業柄、肩  
こり、腰痛に悩まされているの  
で大いに参考にさせていただき  
たい。指圧は手と手のぬくもり  
でパートナーにしてもらいたい  
と思う。」  
以上の方々より、過分な御祝  
の言葉をいただきました。  
その後、孝先生の謝辞、  
「本日、本のタイトルに対す  
る意見も多数きかせていただき  
ありがとうございます。CP  
研究班をつくり一年位たちまし



浪越 孝先生

た。ミーチャン、義雄君から私  
がいろいろ勉強させていただい  
ている段階で、側面から先輩方  
に教えていただき応援してい  
たいです。本年は六月にイ  
タリアアローマ、七月カナダトロ  
ント、九月には母がオランダに、  
十一月には祖父、母達とオース  
トラリアでセミナー、レクチャー  
が開催されました。今後グロ  
バルに指圧を広め、祖父をみな  
らい、父の遺志をついで頑張  
って参ります。」  
とのべ、なごやかなムードの  
うちに幕を閉じた。孝がこのよ  
うに多くのすばらしい方々に見  
守られていることに感謝しつつ、  
この日の感激を深く心にきざみ、  
一層努力し成長していくよう心  
から祈っています。



次回出版を祈念して

日本指圧専門学校同窓会平成七年度決算報告書

自平成7年4月1日  
至平成8年3月31日

短歌

30期 福安志泰



私の師は卒寿を越えて尚元氣  
指圧の技を見事繕ととき

ぬくもりの指圧の技が我に伝う  
卒寿の名人母指のやわらし

肩のこりだんだん消えて笑顔わく  
指圧の技は痛みうぶと縮く

同好会だより

●ゴルフ同好会

年二回春夏「徳治郎杯」ゴルフ大会を開催。シングルプレーヤーも居り年々レベルアップ。ナイスボールもあれば、トラブルショットの珍プレー、フライングプレーの続出、愉快なゴルフを通じて旧交を温めています。日本指圧専門学校内 芦原 滋

●釣天狗同好会

私はつりが好きで良く出かけます。つりでも海づりが特に好きです。海は大きいので豪快でダイナミックでストレスの解消と健康の維持にはもってこいです。男性女性に限らず連絡お待ちしています。

連絡先 教務 藤井正弘  
電話 〇三ー三八一ー二七三五四



収入の部

科目	内 訳	七年度予算	七年度決算
	前年度より繰越	1,763,059	1,763,059
会費	終身会費	1,420,000	1,420,000
事業	総会懇親会	800,000	778,000
雑収入	預金利息	20,000	4,572
	その他	50,000	0
	収入合計	4,053,059	3,965,631

支出の部

科目	内 訳	七年度予算	七年度決算
会議費	総会費	1,200,000	1,360,859
	役員会費	20,000	6,980
	計	1,220,000	1,367,839
事業費	会報発行費	1,300,000	922,434
本部費	通信費	100,000	431,203
	印刷費	20,000	45,205
	渉外費	200,000	208,000
	交通費	150,000	93,560
	慶弔費	50,000	20,000
	事務用品費	20,000	82
	雑費	20,000	1,000
	計	560,000	799,050
	予備費	200,000	0
	支出合計	3,280,000	3,089,323
	次年度繰越	773,059	876,308
	支出総計	4,053,059	3,965,631

支出の部

○会報一四号印刷費 四八〇、〇〇〇円

同発送費(四、〇九〇部) 三六八、五〇〇円

○渉外費 理事長先生九〇歳祝 二〇、〇〇〇円

キロロ研修講師謝礼 五〇、〇〇〇円

○終身会員(一人当二万円) 39期生A組 三五五名分

B組 三五五名分

C組 三六名分

D組 三六名分

計 一四二名分

○総会懇親会費 八千円×九〇名

○総会御祝儀 五名の先生から 五八、〇〇〇円

○次年度繰り越し内訳

貸付信託 七〇七、八三七円

郵便貯金 一六八、四七一円

特別会計 平成七年度協賛金 三七七、〇〇九円

累計 二、八五四、五二九円

平成八年三月三十一日

会計委員 青木 宏

五八、〇〇〇円

二〇、〇〇〇円

五〇、〇〇〇円

五八、〇〇〇円

五八、〇〇〇円

同窓会初企画

指圧研修とスキーツアー

30期 中村秀治

冬の北海道に旅行するなど、考えてもいなかったけれど、同窓会が初めて主催する親睦研修旅行というので、心暖まる思いがしました。

数千名の同窓生が全国で活躍しているわけですから、すばらしい出会いを求めての参加でした。十二月十一日(月)、千歳に着いた時は、東京と同じく雪のない冷風の吹く北国でした。小樽をめざして札幌まで伸びる高速道路で二台のバスに分乗

参加者は予定通り定員若干オーバー、やはり車窓から見る北の海は鉛色でいかにも厳しい表情です。明治の時代、この海はニシンの大漁で豊かさを誇っていたようです。海面にそそり立つ断崖の上に、遠くを眺望するよ

うに、豪邸の屋根が船の先端のようになかつつで造られていました。各地から集まった屈強の漁師が大金を手にしようにニシン漁に出かけたとの事でした。お腹の虫がジーンと鳴きました。小樽の街に到着の前に、ニシン御殿の眼下にひろがる冬の海を眺めながら食事です。

早朝の飛行機から、ずっと静かにしていた……初めてお会いする同窓生もようやくなごんで笑い声があちこちからきこえてくるようになりました。この仲間の中に可愛いさかり



の浪越満都子副校長のお孫(友哉)さんがまじっていました。やはり「孫はいなくなるほどかわいい」とは先生の感想。賑わいを一瞬盛りあげました。小樽市は古い街、ガス灯の立ち並ぶ運河の港町、ロシアの大きな荷物船が入港していました。いよ／＼キロロのホテルビ

ノ。スキー場集まる若者達が大勢来てます。私達もこの若人達に混じって山の気分を味わいました。この夕方から本格的な雪の北海道、テレビでは札幌市内の大雪による混乱を報じています。夜のパーティも別世界のような雪の中で行われ……数時間のうちに大転換をとげた真白い世界にはただ驚きの一語でした。二日目、観光組とスキー組に分かれ観光組はバスでホテルを出発、小樽市内はまさに雪の中

にうづもれた街になっています。鮮魚の市場とお寿司屋で、置物と食事、先輩、後輩、同輩の交流があり非常に和やかな雰囲気でした。今度の参加者は一期生の人から三十六期生の人まで、又北海道で活躍中の同窓生も、空港での出迎えや、市内の案内までして呉れました。ホテルの宿泊中には指圧を通じての共通の思いで心をかよわせました。「講習」と「実技」の時間帯も充実した内容でした。それぞれ

の部屋では、初めての出会いの中で改めて親しい友人が出来たことで喜ぶ仲間も大勢いました。最終日、昨夜のカラオケで思う存分歌ったセミアプロ、又スキーの名人がキロロの粉雪のけむりを楽しんだ嬉しい人達……北海道は私達が来た翌日から冬將軍が占領して全く変わってしまったのです。大雪の中をバスで札幌に向かうコースは、途中小樽市では観光ルートで、一番のドル箱の「石原裕次郎記念館」に立ち寄る以外にバスを降りるところは出来ませんでした。幸運にも千歳からのフライトは十分遅れで順調に東京へ向かいました。初めての同窓会の研修旅行はいろいろ／＼教訓が残ったと思えます。学院から三十六期生の同窓生が、その一部でも再会出来る機会があれば、親しくなれること、学び合うことが出来ること、こんなフレッシュな気持ちになれたことに感謝しております。

34期 丸井秀人

十二月十一日 午前十一時、千歳空港にて合流、参加決定までには、仕事とのスケジューリング調整に苦心しましたが、そんな苦勞もなつかしいあの顔、この顔とのご対面で吹き飛んでしまいました。

一日目は小樽観光、展望閣にて昼食を取り、北の美術豪邸と言われる旧青山別邸を見学、当時のニシン漁の隆盛を偲ばせる贅を尽くした美術建築に、ただ／＼感嘆そしてキロロへ……故浪越 徹先生が、生前から

力を尽くされた北海道キロロの治療室は前々から一度伺って見たいと思いつつ果たせずにいた場所でした。先ずは治療室の有る「ホテルピノ」の印象がすばらしいものでした。

広大なスペースと豊かな空間の吹き抜けの大ホールに美しいピアノ曲が流れ、優雅さと豪華さの共存した贅沢な空間。以前、徹先生が「この空気とこの水とこういう環境のこの場所こそ指圧を行う所だ」と言われた通りのすばらしい環境にあるキロロ。

夜、行われたパーティで旧交を暖め白銀の世界の中眠りにつきました。二日目、午前中は感染症について、大塚寿彦先生のスライドを使っての解り易い講義を受け、続いて浪越満都子先生による基本実技の復習。午後からはサラサラのパウダースノーで久々のスキーを満喫。

三日目は地元の方もめずらしいと言われる程の吹雪の中、石原裕次郎記念館を見学。私は仕事の都合で、その場で別れ札幌に残る事になりましたが心残りもキロロの治療室の、徹先生考案のヤマハ治療台で指圧を受けて見たかったのですが指圧の予約が一杯で残念でした。先生方を始め、同期の皆さんに会えてとても楽しい数日間を過ごさせていただきました。これからも『指圧の心、母心』の精神を忘れずに行きたいと思

います。

30期 宮田經子

十二月十一日(月)キロロツアーに参加した私達総勢五十五名、午前九時三十分発JAL五〇七便にて羽田を立ち空路札幌へ!

私にとって初めての空の旅、落ち着かぬ思いでの一時間半、機内でのお茶とお菓子のサービ

スさえ嬉しく、「飛行機に乗っているんだなあ」と実感しつつ時代遅れの自分が可笑しくもありました。あつという間に千歳空港に着し降り立った札幌は雪も無く「この時期に雪が無いのは珍しいとのこと」札幌観光は帰路の楽しみに残り早速二台のバスに分乗して小樽へ向かう。

昼食はニセコ、積丹、小樽海岸国定公園ホテル展望閣で海から山に変わっていく窓の景色を楽しみ乍ら格別美味しい蟹の入ったお弁当に満足。

食後一五〇坪の敷地に贅を凝らして建てられている豪邸、旧青山別邸を見学、にしん漁に湧いた当時の力に驚嘆する。処どころ雪を被った庭園を抜け、現実に戻ってバスにゆられること一時間、宿泊地の「ホテルピノ」へ午後四時到着。

「ホテルピノ」は想像以上に美しくメルヘンの世界に迷い込んだようだった。雪国の建物に二重構造になっており東京より遙かに暖かく快適に過ごせるのだと言うことを認識する。お風呂で疲れをとり、パーティ会場へ、食事は海の幸をふんだ

んに使ったバイキング形式。

このキロロに浪越指圧の治療室がつくられた由来を司会の坂本先生からあり、「ホテルピノ」の建設予定の時点でヤマハからの誘いがあり、校長でいらした故徹先生と坂本先生のお二人で何度かキロロを視察し、新鮮な空気と、美味しい水、回りの環境等を考え「ここなら」と徹先生が大変気に入られ治療所がつくられたそうです。

その後、両副校長、浪越満都子先生、浪越孝先生の挨拶、次いで夕起夫人、長男友哉君の紹介がありみんな祝福し宴に入る。

余興(ビンゴゲーム)で本当に楽しいひとときを過ごす。二次会は十一時迄カラオケで美声を競い合う。

部屋に戻りベッドに入る。窓の外は雪が振り気分は最高。知らぬ間に眠り世界へはいり。十二月十二日(火)朝食バイキング、北海道ならではのメニュー、外は粉雪が舞っている。

九時より「最近の免疫学の動向について」講師大塚寿彦先生によるスライドを交えた講義が行われ、臨床に役立つ有意義な講義でした。

十時半から会場を移し「横臥の基本指圧」が、満都子先生のご指導のもとに行われ学生時代がなつかしく思い出されました。終了後は、終了証書と記念品の授与式があり一人／＼に直接手渡され感激もひとしおでした。会場を出ると左側に大雪山を(次ページへつづく)

(前ページよりつづく)

バックに教会がありロマンチックな銀世界で神秘的で荘厳さを感じられました。

午後一時スキー班は雪質最高のゲレンデへ、観光班はバスにて小樽へ、小樽市内で自由散策、各自小樽灯台市場、小樽ヴェネツィ美術館、北一ガラスト工藝品小樽運河へと分れる。

十三日(水)朝食バイキング、外は小雪が舞っている。午前中は自由行動、ロビーには一足早くクリスマスツリー、豪華な植込みをバックに記念写真、喫茶室でコーヒーの香りに酔いながら一杯いただく。

十二時バスはホテルを出発、二泊の思い出を残し裕次郎記念館へと向かう。裕次郎記念館見学の後、コースは大雪のため一路空港へと向かい、札幌市内の観光は次回のお楽しみ、空のダイヤも乱れたが、私達は午後七時無事フライト、ミッキーマウス機は今日が最後の旅、大きな翼の下に美しい夜景を見下ろしながら空路東京へ。

初めての同窓会の企画、北の旅、楽しく無事に終了出来たのも、満都子先生はじめ幹事の皆様のお力のお陰と感謝しております。次回も楽しみにしております。

31期 高野助二

「北海道で一番好きなスキー場」と話してくれた仲間がいた。キロススキーエリアは、ヤマハが開発した歴史の浅いスキー場

だが、宿舎の名前が「ホテルピアノ」だなんて洒落てる。

千歳空港は粉雪が舞っていた。朝の九時に羽田を発ち、途中、小樽港を見下す丘のホテルで、ゆっくりに朝食をとってキロススキー場のゲレンデに立った時は三時半になっていた。

北国の夕暮れは早い。スキー場は四時からナイタータイムとなる。六時の夕食までの僅かな時間に、カクテル光線に照らされたゲレンデを八回滑った。

夕食はホテルの計らいで特別室での歓待をうけた。キロロは故浪越徹校長が大変に気に入っておられ、開発の段階ではアドバイザーもされたという。ホテルの中には浪越指圧センターも置かれ、パーティの終わりにには若指圧スタッフ数名が挨拶に来られ一緒にゲームを楽しんだ。

八時からは、会場を移して飲み放題、歌い放題のカラオケパーティとなった。翌日のスキー場は朝から吹雪いていたが、二メートルの積雪、低い気温とあってコースは最上

の状態だった。昼食をはさんでロープウェーを十回乗った。スキー場は人影もまばらで空いており六人乗りのゴンドラをたった一人で乗るぜいたくを充分に味わった。

今シーズンの初滑りであって、さすがに疲労を感じて三時頃に帰りに疲れたところ、孝先生ご夫妻とお会いし再びゴンドラに戻り最良のコースをご案内した。帰京の日、三日間も朝から吹雪、今日はスキーをやめて昼頃

の出発までホテル内を散策する。最上階まで吹抜けのエンタランスホール。立派な造りである。一時間毎にホールの一角で自動ピアノが演奏を始める。ピアノメーカーのヤマハらしさを感じた。

帰途、「石原裕次郎記念館」

同期会だより

ひふみ会旅行記

4期 根岸とき枝

山峡のいで湯の町に風立ちて青き西空羊ぐも浮く

浪越徳治郎先生命名の「ひふみ会」に参加させて頂き二度目の四期、五期合同の当番が廻って参りました。今回は徳治郎先生もお元気で御参加下さいまして当番一同張り切って計画を立てました。九月三日午前九時

だ日本に五台しかないという後部座席がサロン風と洒落た新車のバスで、日本指圧専門学校前より参加者二十四名を乗せ、一路首都高速、東北道と走り、車中はジュース、カンビール、お

に立ち寄る。札幌市内の観光も予定されていたが、予想外の大雪による積雪のため、市内の交通は大渋滞とあって札幌は素通りして千歳空港へ直行することになった。思えば自衛隊まで出動する騒ぎとなった今冬の「北海道雪害」の前触れであった。

お蔭で空港ビルでゆとりが出来、話題のオホーツク地ビールを、ゆっくりに味わえることになった。

酒とそしてカラオケ：宇都宮ICで中国料理店「大晃」で昼食和気あい／＼の中満腹後日光宇都宮道路を今市ICで下り、東武ワールドスクエア、此の旅行のメイン二時間三十分の見物時間

間がアツという間に過ぎる。世界各国の遺跡や建築物が二十五分の一の縮小で精巧に再現されており、時代を超えて、国境を越えて世界を一望する事が出来る。例えば指圧国際大会で実物を見て来た：イタリアのサンマルコ寺院、コロッセオ、イギリ

スのタワーブリッジ、フランスの凱旋門、スペインのバルセロナ大聖堂、中国の万里の長城、日本の熊本城、日本の四季の日本の祭等々、小さな人々が(一八〇cmが七・二cm)歌ったり、踊ったり、演奏したりそれは見



事なものでした。又新しくオーブンした、フランスから来たサーカスの鉾の見事で華麗な楽しいサーカスの世界、パレードから始まり、動物たちの檻、団員たちのトレーラー生活、大テント内の曲芸の数々、ビエロの演技スリリングなアクロバットと子供の頃見たサーカスを思い出してはすばらしい夢の世界でした。バスは竜王峡へ、青々とした大木のかげより滝の音をかすかに聞き十五分の休みを取り一路川治温泉へ!!宿へ到着後露天風呂で汗を流し、湯上がりのさわやかな顔で宴会場へ、六時から増田先生の乾盃の音頭で宴に入る。土屋両先生のいきなおどり、石沢先生の見事なさるのおどり、舟田先生の初めての唄に司会の青木先生が感激の涙を



（前ページよりつづく）

木光子先生も、三期神田勇先生、四期木村久子先生、厚く御礼申し上げます。

四期の会

4期 根岸とき枝

当番 石原博司 和田常男

胡弓の音、心に響くおわら盆八尾の町中 踊り明かす夜

六月十八日、東京から九名富山駅午後二時山川様のおむかえを受ける。この度の会は二泊三日のスケジュール、富山県立山アルペンルートの案内は山川様駅からジャンボタクシーに乗車重要文化財北前船回船問屋（森家）を見学、北前船の歴史街道



▶四期の皆さん

宿場町、港町岩瀬を：前日昼氣様が見えたと言う港の展望台砂濱を散策、青森から参加の古跡様の待つ売薬資料館へ全員集まり、売薬今昔を見学後宿の呉羽ハイッ、露天風呂で汗を流し、富山の胡弓、三味線、民謡の名手の：胸に沁み入る美しい音色にうっとり聞きはれる。石井様の開会のあいさつ、古跡様の乾杯に始まり、カラオケ、ダンス、二次会は十時終了。

十九日朝八時ジャンボタクシーに分乗し立山駅からケーブルカー、美女平からバスで室堂へ、途中雪の大谷はまだ五米の残雪スキーを楽しんでいる人達がいきました。室堂の駅に着く頃には雨も降り出し視界ゼロ、室堂平のみくりが池を静かに水をたたえる雲の上、二、四五〇米の神秘を眺めながら昼食となる筈が雪は五〇cm以上、雨が降り霧で一寸先も見えず。又トンネル、バスで大観峰まで行き雪のトンネルをぐぐり展望台へ：青空が広がり黒部湖を眼下に眺めながら室堂とは打って変わった天候山の神秘さにおどろきながら楽しい昼食となりました。立山玉殿の湧水を持参のボトルに入れ明日のお茶会用に持ち帰った。宿に着いてから浪越徳治郎先生の寄せ書きを夜の更ける迄語り明かした。三日目市内をバスと電車で見物、山川様毛で茶会をそして昼食を頂きました。嵐のような忙しさを御散財をお掛けしました。

た木村様、貝塚様本当にありがとうございました。又連絡通知写真のお世話を頂いた、石原様、瓦様、古跡様には青森の山の幸を沢山頂戴しました。指圧を志し三十五年の歳月が過ぎ毎年四期会を開くことが出来ることはみな様のお陰と感謝致して居ります。次回十回は東京開催です。一期一会の心：一回一回を大切に、ありがとうございました。

道東の花と知床秘境の旅 錦絵会 24期 山田 滋

旅の始めに当り去る三月四日病弱の奥さんを残して逝った小沼 貞氏に黙祷を捧げ冥福を祈った。北海道一の大河石狩に沿って大雪山系を正面に進むと旭岳を初め冠雪の山々がクッキリと浮かんで並ぶ。北の森ガーデンでの昼食の後アイスパビリオンで旭川の厳寒最高記録マイナス四十一度を体験するのだが雪と氷の世界がライトアップされ幻想的風景に浮きく：入ったが途中で防寒服を着せられてから次第に気温が下がって行く上に風も強くなり足元から氷が這い上がって来てほう／＼の体で逃げ出したら「厳寒体験証明書」を呉れた。北海道最長の浮島トンネルを抜けると新緑の林に白樺の幹がクッキリと映え、風雪にたえた蝦夷松、椴松が嶽樺と共に立っている。

滝上の芝桜の鮮やかなピンクの園（丘）には期せずして「ウオーツ」と驚きの声となる。モスフロックス、ローズ、ラベンダー等の花々の香りが漂っていつしか花の王子か女王様になった気分です。三十分の休息ではムードを味わう散策もままならず写真を撮り、苗を買い、テレホンカードを作り、アイスクリームを口にして出発です。上湧別の世界の豪華と気品を備えた百万本のチューリップの花畑に又々息を呑む。北国の遅い春風にオランダ風車がゆっくりに戻って一同ご満悦。



▶二十四期錦絵会

所を左にして街灯も電話BOXもニポボ人形の網走を出るとナカマドロードからシジミの藻琴湖、オホーツク海から二十米の所に建つ北浜駅は六帖程の小さな駅舎で寒々としていた。この辺も原生花園が広がるが「はまなす」の花まではまだ遠い。冬ならば流水打ちつける海岸も宇登呂へとその名の如く地の果てのロードが続く。ウトロ港からの「おおろぎ島」は冬ならば砕氷船である。知床の紺碧の海に白い航跡を残し鴉の群と戯れて進み小雨の中にそそり立つ絶壁にしがみつく原始の木々と硫黄を含んだ雨に海面を乳白色に染め神秘的なコントラストである。オシンコシンの（滑り落ちるの意）三重の滝も勇壮そのもので飛沫にぬれる。斜里清里の焼酎工場は休日のため四十四度の原酒の呑み放題に

# 平成7年度第37期生卒業式

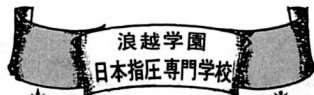
祝御卒業



- 一、校長式辞
- 一、来賓祝辞
- 一、同窓会会長 石垣惟一先生
- 一、元文部大臣 鳩山邦夫先生
- 一、(代読、阿部正明秘書)
- 一、祝電披露、来賓ご紹介
- 一、送辞 36期会長松本喜照氏
- 一、答辞 37期会長岡田 主氏
- 一、記念品目録贈呈松崎 理氏

平成八年三月九日(土)午前十時名園「椿山荘」において、日本指圧専門学校第37期生卒業式が厳粛のもも挙行された。この日は、快晴に恵まれ卒業生の前途を祝福するが如く、又卒業生全員の顔もはればれとしていた。

- 式典は、
- 一、開式の辞 浪越 孝副校長
  - 一、君が代斉唱
  - 一、卒業証書授与
  - 一、賞状授与
  - 一、皆勤賞 (三年間、三名)
    - (一年間、十一名)
    - (二、七名)
    - (二十三名)
  - 一、功労賞 (八名)
  - 一、優等賞 (八名)
  - 一、特別賞 (八名)
  - 一、精勵賞 (八名)
  - 一、東洋療法学校協会賞 (一名)
  - 一、「医道の日本」社賞 (一名)



## 学園だより

(前ページよりつづく)

石黒氏の家の近くの優良良織工芸館で早春、水芭蕉、ハマナス、サンゴソウ等々優雅な織物

に溜息が出るのだが身分相応の品を求めて次に来たらもっと上物を買うつもりだ。さき、石黒、伴の両氏とはここで別れられた。深川から高速に入り砂川ハイウェイオワシスで北華樓のア

ンコ餅を買った後は一路新千歳空港へ。帯運観光の安全運転の山口さん、乗客を飽きさせなかつたガイドの鈴木さん、治療の合間にあなたに教えてもらった「オホーツクの海」を唄いますか

らね、添乗員の田中さん、楽しい旅を有難う。同行の家族も合めたクラスの皆さんお疲れさまでした。又の会う日を楽しみにしています。福岡から掲載の写真と共に次の手紙が届きました

た。  
北海道は中国大陸の感じだ  
北海道は大きいぞ、広いぞ  
エゾ鹿もキタキツネも見たぞ  
海と山のオゾンを一  
杯吸ったぞ

### 初めての老人ホーム実習

二年D組 下倉義正

去る四月二十八日(金) 飯能市立老人ホームの実習に初めて参加しました。

前週に行われた飯能病院実習の級友の体験談は病気の老年寄の施術とても基本通りにはい

かない、圧の程度もむずかしい姿勢もままならない状態。それに比べる今回は、多少は楽なのかなあーと思いつつ、初めて学校以外の他人に施術する体験への期待を持って施設に向かいました。

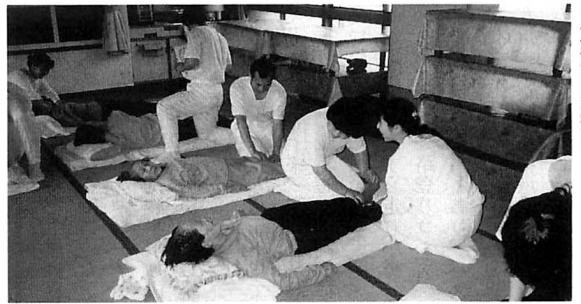
奥武蔵は比較的楽なハイキングコースが沢山あり、自分も飯能を拠点として二十代から良く歩いた所で、そんな山並が見える空気の良い所に施設はありました。施設に着くと直ぐ実技衣に着替えて用意された広間に行きました。今回の我々の実習生は十四名です。既にフトンも敷かれていてその上に休まれています。休まれている方々は八十才以上の方から比較的若い方(後で施設の職員と分かる)までいました。

僕が実習することになった方は施設の職員で五十代のかた

血も浄化したぞ、頑張るぞ!! (山田 滋記)  
昨年の忘年会は恒例横浜華正樓で十八名の集まりでした。



▶初めてのボランティア



▲真剣に治療中

しょう。老人ホームの実習としては少し拍子抜けの感がしました。他の実習生も対話、笑い、楽しい雰囲気伝わってきます。そして一時間施術時間が短く感じました。中には結構圧加減や、気苦労で大変だった実習生もいました。

実習が終って受け手の方にいかがですか?と尋ねたところ「肩が楽になりました」と言って喜んでくださいました。未熟者の自分が行なったことに対しお世辞としてそれしか言いようがなかったことと思います。でも初めて他の人に施術して、少しでも喜んで貰えたなら、幸せだと思いました。

C組は、前週の老人病院の時も七名参加し今回も六名参加しました。そのボランティア精神にとっても敬服しています。今回良い機会と体験が得られました。

### 箱根旅行について

一年B組 中村和泰

本日、一九九五年七月十六日(日)は、日本指圧専門学校第三十九期生合同の親睦旅行であった。遠距離通学者、朝寝坊常習者の方々にはチョット酷な八時校門前の出発であったが、六名の当日不参加者があったものの、百四十二名中百十名(七八%)の生徒が諸先生の引率の下、バス三台に分乗して箱根路へ向かった。幸い梅雨期の一休み、今にも泣き出しそうな天候ながら雨にも遭わずに無事予定通りに行事進行が出来たことはご同慶の至りである。休日とあって大勢の観光客で賑わった箱根であった。アメリカ、オーストラリア等は一步市街地を出ると、荒れ果てた砂漠に変貌する所が多いが日本は違う。大自然の美しさ、楽しさを十分に満喫出来る本当に有り難い国である。地球環境保全・自然保護の必要性を生意気にも痛感した次第であった。

『箱根の山は天下の嶮』昔の旅人はこの山々を越えるのにさぞ艱難辛苦されたのであろうが、現在では車で一とび。時代の推移は世を大きく変貌させて来たものだ。何度訪れても箱根の旅は楽しい。特に今回は一学期末の試験が終り、終業式を待つ最良の日々の中の一日であった

自分もこれから老人病院や老人ホームの実習に積極的に参加し、を積んで行きたいと思っております。

本校の特色である老若男女取り混ぜられた一行であったが和やかな集いの中にも協調性と規律があり、今後三年の行く末を占うに何等不安のない事が確信出来たものと愚考する次第である。

引率の諸先生方のご心労、委員(旅行・アルバム、他)皆様の細かい心配りには心から感謝申し上げる次第である。

山の緑と川のせせらぎ、観光船で昔の湖周遊、彫刻の森美術館の散策、小田急山のホテルで



彫刻の森美術館にて

の昼食会、車中のゲームやカラオケ大会等で参加者の皆さんは身も心もリフレッシュすると共に学友との和やかな交流も果たし得たものと思う。きつと心に楽しい思い出の一頁を飾り得たものと信じている。

バブル崩壊、円高、それに伴う産業経済構造の大転換を余儀なくされる時、阪神を襲った大地震災、加えてオウム真理教の大テロ事件と何か世紀末の呻きさえも感じられる厳しい夏、時あたかも敗戦から五十年、あの戦

### キロロ卒業旅行を終えて

二年B組 長井 晶太郎

卒業式の翌日、異様に速い電車に乗り羽田に着いた。午前六時三十分の集合時間に多少もうろうとしながら北海道に對する夢をふくらましていた。

北海道それは私にとってまさに未知の世界。人の噂では、いくら井の上にはゴハンが見えないほどのブリブリしたいくらがのってくるのだ、牛乳の味が全然違うとか、地平線の向こうに直線道路が消えていくのだ、パウダースノーがほんとにサラサラで雪だるまが出来ないとか、異国の話のようなので、その実体を確かめるいいチャンスと思っていた。(まあ、要は初めて北海道に行くのでとにかく期待しているんですね)

あつという間に千歳空港に着き、まばたきをする間にキロロに着いた。(熟睡していたので



▲「雪空指圧」の指圧体験

後のドサクサ、食べる物もなく着る物はもちろん住む家さえも焼け出され、そんな中からよく這い上がり生きて来たものと独り感慨にふけると共に、この世に生を享受出来る喜び、健康で行業の一日を過ごし得た嬉しさを存分に噛みしめている次第である。

待ち受ける今後数度のテスト地獄の関門を巧みにクリアして、来年の二泊旅行も又楽しく参加したいものだ。

頑張ろうぜ、エブリバディ!!

料理が所せましと並べられた。うまい、とにかく新鮮、量も種類もたっぷりあって大満足。(前日にも椿山荘でごちそうを食べたが、ほんとにキロロの食事はうまかった)

在学中学校のビデオで見た時には正直言って「なんだこりゃ」と思っていたゲームも実施やると結構燃える。真剣にやって最下位になった。

二次会のカラオケ大会も大盛況。

二日目は朝からスキー。サラサラのパウダースノーは本当に本物で、本州の雪しか知らない私は何だか良くわからないうちに午前中が終る。初めてスノーボードに挑戦している連中は五十センチ、一メートルごとにこけまくっているらしく、リフト一回滑ってくる間に五十メートルも進んでいない。やはりスクール

ルに入るべきであろう。  
 とにかく天気はピーカン。何でもキロロでこれだけ晴れることは珍しいそう、これはやはり私達の普段の行ないの賜物でありましょう。月曜日だからリフトも空いているし、ゲレンデもひと斜面貸切り状態。レンタルスキーもウェアもリフトもむちゃくちゃ安い。学校のヨイショと思う方もあるかも知れないが、この旅行は来ない人は損です。  
 まあ朝早く起きて小樽の朝市に行ったり、裕次郎記念館で写真を撮りまくった人もいます。明け方までマージャンやって大負けした人もいます。花札やってポロ〜になった人もいれば、

### 卒業旅行キ〇〇

#### スキーツアーに参加して

#### 三年A組 能勢 大光

三月十日午前九時、千歳は真白な大地、真青な空であった。空港周辺は高層建築物もなく、落葉樹林の丘陵が見渡す限り広がり、遥かに恵庭岳がかすむ雄大な眺望であった。  
 千歳からキロロリゾートまで専用バスで直行約二時間。五十年振りとかの豪雪。両側に高い白壁を築く道路は完全除雪。高速道路をひたすら走り小樽インターで左折し路登りコース。さすがに道路に雪もあり、バスは慎重に走る。道路沿いに右折左折、眼下に小樽港を見下ろしながら行くほどに人家が全く見られぬ。白樺などの落葉樹に覆

札幌まで行って有意義にショッピングした人もいました。初スキー、初スノーボードにチャレンジした人も苦労したようですが最終的には様になって来たようです。いろいろな楽しみ方の出来る、三年間学校生活を共にしたみんなと過ごせる最後の時間でした。国家試験、卒業式の終わった解放感の中で(試験発表前でしたが)本当に楽しい旅行でした。是非浪越学園の特典と利用させて頂きたい...とそう思いました。  
 (ちなみに今日試験結果の発表があり、無事合格していたことを、ついでに書き添えます)

われた北海道らしい大きくゆるやかな稜線が迎えてくれる。春の新緑、夏の爽涼、秋の紅葉などに想いを馳せながら、特にあの白樺の嫩葉が毎日彩りを変えて行く頃にゆっくり滞在して眺められれば最高だろうと思つた。  
 予定通り十一時半にキロロリゾートの本拠、ホテルピアノに到着。正に忽然と出窓が目立つ欧風の建物が屹立。ホテル中心部は大きな吹抜で、ヤマハ系で名前の通り館内にピアノの旋律が流れている。家族連れも目につくが矢張り圧倒的に若いグループやベアが多い。

## 海外便り

### 25期 小野田 茂

三月一日(金)学校25期生の小野田茂先生(スペイン在住)が母校を訪問され、在校生のみならずスペインの指圧の現状、浪越指圧についてお話しされました(これはまた記憶に新しいと思います)。  
 小野田先生から同窓会に寄せられた手紙を掲載致します。

二十五期卒業の小野田茂です。早いものでスペインのマドリッドで治療院を開設して十二年目になりました。思えば労働許可取得の段階で「指圧とはどんな職業か」という問いに係官を相手に、指圧のデモンストレーションをして持ち時間三分の所を二十五分も延長して係官の寝ちがいを治療した事、初めの頃スペイン人を治療して熱が出て起きられなくなったりして、スペイン人と日本人の体の構造上の違いを経験により知り、スペイン人に合わせたパターンを考案した事、合せて今考えると良い思



小野田先生と生徒さん  
 卒業式の謝恩会の折、理事長先生はじめ諸先生方より、励ましの言葉をいただき、私は期待を胸に五月十日、カナダのトロントへ出発しました。  
 カナダのトロントへ無事到着し

### カナダの研修を終え

#### 36期 小暮 直人



ました。空港では指圧アカデミーの齊藤健泉先生が迎えに来てくれました。始めて外国の地を訪れた私は、長旅の疲れも忘れてカナダの広大な自然に感動しました。

私は齊藤先生の家にお世話になることになり、そこには英語を学びに来ている日本人の女の子と、指圧アカデミーの生徒であるクリスというフランス人が住んでいました。私は「外国の人と一緒に住むのか」と少し不安な様子で、(次ページへつづく)

(前ページよりつづく)

安になりましたが、クリスマスはとも明るく私に色々話しかけてくれるので、その不安もなくなりました。

また時差ボケのぬけない私は、朝早くに目覚めてしまい、何もする事がないので近くの公園迄ジョギングをする事にしました。カナダの朝の空気はとてもおいしく、少し寒いのですが、それが逆に気持ち良く感じられ、ハネるようにして公園へ向かいました。その公園は、日本の公園とは比較にならないほど広く、その向こうにはCNタワーやビルが立ち並び、まさにそこは、カナダに居るといふ実感と感動を一身に感じる事が出来る場所でした。その後も何度かその公園に足を運びました。その度にその広大な景色を見て「カナダに来て良かったなあ」と、心から思いました。

何日かして、カナダでの生活もいくらか慣れてきた頃、仕事が始まりました。始めて外人の人に指圧をするので、やはりコミュニケーションの面で不安がありました。私はあまり会話が出来ない分、一生懸命心を込めて指圧をしようと努め、その心が通じたのか、皆心良く私の指圧を受けてくれ、又大変喜んでくれました。私は改めて指圧のすばらしさを実感しました。仕事が終ると、斉藤先生が、生徒さん達に私を紹介してくれました。その日は度々実技の日で皆真剣に指圧に取り組んでいました。私はそれを見て自分も頑張らなくてはと一緒に練習させてもらいました。色々な国の人が日本の文化である指圧をこうして外国の地で学んでいるということは、ずばらしい事だと思いました。

七月になると、ここトロントで指圧の国際大会が盛大に行なわれました。この大会では世界各国より、大勢の先生達が参加され研究発表やオンタリオブレースでの青空指圧、船上でのディナーパーティなど二日間にも亘り行なわれ、とても内容の充実したものとなり、大成功に終わりました。この大成功の裏には何ヶ月もの斉藤先生の御尽力と、指圧アカデミーの生徒さん達の協力がありました。私はこの大会に参加出来た事を誇りに思い、又この大会は今後の私の指圧にとって、とても大きなものとなりました。

短い夏も終り、秋になると私は友人と共にオタワヘドライブに出かけました。道の両側に広がる紅葉は、まさに絵ハガキに出てきそうな風景そのものでした。冬になるとマイナス20度の世界が待っていました。外に出ると体中が凍りそう息を吸うと鼻の中が凍るのがわかるほどでした。しかし室中に入るとすべてがセントラルヒーティングとなっており、生活する場は日本より寒さを感じないほどで、カナダの冬はとてつらいという私の中のイメージが少し変わりました。

三月になり、私が四月の始めに帰国する事が決まると、指圧アカデミーの人達や、カナダで知り合った友達を送別会を開いてくれました。カナダへ来て一番の財産はこのような友人との出会いでした。この国境を越えた人との出会いは、又一つ自分自身を成長させてくれたように思います。最後に、世界の指圧の掛け橋をつくらせて下さった徹先生を、又今回お世話になった斉藤先生、孝先生、その他諸先生方に深く感謝致します。本当にありがとうございます。

協賛金賛助者ご芳名

◇平成七年度賛助金総額

(平成七年五月十一日)

六月十一日

一一五件 三三七、〇〇九円

◇累計

昭和六十年年度〜平成六年度

一、一七八件

二、四七七、五二〇円

合計 一、二九三件

二、八五四、五二九円

(郵便手数料六一、八八〇円)

◇平成七年度

協賛金賛助者ご芳名

(敬称略、順不同)

ご芳名掲載をもってご協賛の御礼と領収の証とさせていただきます。〇数字は卒業期

- ◎ 貳万五仟円 藤本寛山<sup>①</sup>
- ◎ 壹万円 川口義博<sup>②</sup>岩見和夫<sup>③</sup>田島市五郎<sup>④</sup>井上征夫<sup>⑤</sup>島田武一郎<sup>⑥</sup>
- ◎ 八仟円 高野正之<sup>⑦</sup>
- ◎ 五仟円 片岡弘昌<sup>⑧</sup>渡辺利雄<sup>⑨</sup>渡辺利雄<sup>⑩</sup>濱中喜美子<sup>⑪</sup>石原博司<sup>⑫</sup>沢畑碩亮<sup>⑬</sup>福沢司津江<sup>⑭</sup>西千鶴子<sup>⑮</sup>山下泰司<sup>⑯</sup>相澤若江<sup>⑰</sup>嘉義了久<sup>⑱</sup>木下誠<sup>⑲</sup>笹木喜太郎<sup>⑳</sup>久保田紀代子<sup>㉑</sup>国田イト子<sup>㉒</sup>小畑実<sup>㉓</sup>神田咲<sup>㉔</sup>青木宏
- ◎ 四千八百円 一色勝義<sup>㉕</sup>
- ◎ 参千円 内村隆秀<sup>㉖</sup>根岸正行<sup>㉗</sup>辰見信重<sup>㉘</sup>馬場今朝美<sup>㉙</sup>馬場智子<sup>㉚</sup>山川友枝<sup>㉛</sup>新村忠志<sup>㉜</sup>上田幸子<sup>㉝</sup>藤倉正二<sup>㉞</sup>高村通江<sup>㉟</sup>舟島正八<sup>㊱</sup>鈴木章<sup>㊲</sup>二沢茂<sup>㊳</sup>村野博幸<sup>㊴</sup>前川磯文<sup>㊵</sup>松本一雄<sup>㊶</sup>椿行雄<sup>㊷</sup>皿井千代子<sup>㊸</sup>赤沢えい<sup>㊹</sup>石崎正臣<sup>㊺</sup>田村親郷<sup>㊻</sup>池永卓雄<sup>㊼</sup>荒川シズ<sup>㊽</sup>荒川隆司<sup>㊾</sup>

- ◎ 貳千円 湯沢洋二<sup>㊿</sup>原忠雄<sup>㊽</sup>辻捨吉<sup>㊾</sup>与沢義江<sup>㊿</sup>菊地輝夫<sup>㊽</sup>佐藤肇<sup>㊾</sup>林五郎<sup>㊿</sup>宮田經子<sup>㊽</sup>齊藤嘉子<sup>㊾</sup>内山和子<sup>㊿</sup>上野欣二<sup>㊽</sup>小倉和子<sup>㊾</sup>小山福松<sup>㊿</sup>山田滋<sup>㊽</sup>小林秋朝<sup>㊾</sup>持木光子<sup>㊿</sup>安田富男<sup>㊽</sup>中島都三郎<sup>㊾</sup>湯浅キヨ<sup>㊿</sup>細谷節子<sup>㊽</sup>石垣惟一<sup>㊾</sup>青木豊<sup>㊿</sup>江戸妙子<sup>㊽</sup>小川久子<sup>㊾</sup>丸山真一<sup>㊿</sup>山下茂幸<sup>㊽</sup>小泉鐵夫<sup>㊾</sup>野口幸子<sup>㊿</sup>樋口正汎<sup>㊽</sup>小久保和夫<sup>㊾</sup>藤井正弘<sup>㊿</sup>小林彦太郎<sup>㊽</sup>石塚トヨ<sup>㊾</sup>海賀俊雄<sup>㊿</sup>村井田澄

- 男<sup>㊿</sup>稲場啓護<sup>㊽</sup>藤田和子<sup>㊾</sup>船田弘子<sup>㊿</sup>佐藤岩治郎<sup>㊽</sup>四條静江<sup>㊾</sup>山本文子<sup>㊿</sup>工藤てる<sup>㊽</sup>若杉ミイ<sup>㊾</sup>浪越満都子<sup>㊿</sup>高橋和子<sup>㊽</sup>松浦鶴子<sup>㊾</sup>齊藤鶴男<sup>㊿</sup>日野敏造<sup>㊽</sup>藤田一彦<sup>㊾</sup>田代和平<sup>㊿</sup>小林カノエ<sup>㊽</sup>近藤くに子<sup>㊾</sup>小川清<sup>㊿</sup>鶴見せつ子<sup>㊽</sup>浪越孝<sup>㊾</sup>河原善次郎<sup>㊿</sup>市来俊一<sup>㊽</sup>本田泰弘<sup>㊾</sup>池田知以子<sup>㊿</sup>小倉義夫<sup>㊽</sup>
- ◎ 壹千円 三好英子<sup>㊿</sup>青柳勇<sup>㊽</sup>石神隆三<sup>㊿</sup>川部太郎<sup>㊽</sup>鈴木林三<sup>㊿</sup>
- ◎ 貳百九円 熊谷誠司<sup>㊿</sup>

※平成七年度の決算報告書は会報六頁に掲載致しました。

日本指圧専門学校 同窓会 平成八年度 通常総会・懇親会

左記により同窓会総会並びに懇親会を開催いたしますのでご出席下さいますようお願い申し上げます。

日本指圧専門学校同窓会会長 石垣 惟一

記

一、とき 平成八年六月九日(日)

一、ところ 茗溪会館

(電話三三九四三・〇三二二)

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅歩一分)

一、内容 総会(一〇〇〇〜一二〇〇)

記念講演(一二・二〇〜一二・三〇)

演者 中山義之先生

懇親会(一二・三〇〜一三・三〇)

一、会費 八、〇〇〇円(当日も可)

一、申込 同封の郵便払込用紙で会費を前納して頂きますと受付事務混雑が防げますのでご協力をお願いします。

出欠のはがき六月三日必着でお願い致します。